

# 2014年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2014年1月  
大阪ガス株式会社

# I. 14.3期第3四半期実績

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

**四半期表記に関する注記** : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

# 14.3期第3四半期決算のポイント

## ■ 概況(連結)

売上高	LNG価格の上昇に伴い、原料費調整制度に基づくガス販売価格が上昇したことなどから、 <b>前年比7.4%(708億円)増収の10,343億円。</b>
経常利益	時期ずれ差損の拡大(15億円→121億円)やガス販売量の減少により、ガス粗利益が減少したことなどから、 <b>前年比8.2%(57億円)減益の652億円。</b>
四半期純利益	米国上流事業で減損損失を計上したことにより、 <b>前年比68.6%(314億円)減益の143億円。</b>

## ■ ガス販売量(個別)

家庭用	気水温が前年より高く推移し、給湯・暖房需要が減少したことなどから、 <b>前年比5.5%(74百万m<sup>3</sup>)減少の1,269百万m<sup>3</sup>。</b>
商・公・医療用	お客さま先でのコージェネレーションシステム稼働減などにより、 <b>前年比0.9%(10百万m<sup>3</sup>)減少の1,102百万m<sup>3</sup>。</b>
工業用	需要開発などにより、 <b>前年比1.5%(47百万m<sup>3</sup>)増加の3,193百万m<sup>3</sup>。</b>

## ■ その他

通期業績見通し | **12月20日に当期純利益の予想値を下方修正。**

# 14.3期第3四半期ガス販売実績

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 14.3期3Q	B. 13.3期3Q	前年差	前年比
個 別	お客さま数(千件)	7,111	7,067	+45	+0.6%
	新設工事件数(千件)	63	57	+6	+10.3%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	24.1	25.6	-1.5	-5.9%
	家庭用	1,269	1,342	-74	-5.5%
	商・公・医療用	1,102	1,112	-10	-0.9%
	工業用	3,193	3,146	+47	+1.5%
	業務用計	4,296	4,259	+37	+0.9%
	他ガス事業者向け	332	337	-5	-1.4%
	(うち大口供給)	(3,683)	(3,647)	(+36)	(+1.0%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	5,897	5,938	-41	-0.7%
連結ガス販売量	5,920	5,962	-42	-0.7%	

# 14.3期第3四半期実績 |

( )内は連単倍率

連結:億円	A. 14.3期3Q	B. 13.3期3Q	前年差	前年比	備考
売上高	(1.23) 10,343	(1.24) 9,635	+708	+7.4%	ガス販売価格の上昇、 附帯事業売上の増加等
営業利益	(1.74) 595	(1.67) 674	-78	-11.7%	ガス粗利益の減少等
経常利益	(1.61) 652	(1.52) 710	-57	-8.2%	持分法投資利益の 増加等
四半期純利益	(2.64) 143	(1.43) 458	-314	-68.6%	減損損失の計上

		A. 14.3期3Q	B. 13.3期3Q	前年差
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup>	5,920	5,962	-42
時期ずれ差損益	億円	-121	-15	-105
原油価格	\$/bbl	109.3	114.0	-4.7
為替レート	円/\$	99.4	80.0	+19.4
連結子会社数		130	131	-1

14.3期3Q原油価格実績は、12月上中旬値までの平均。

# 14.3期第3四半期実績 II

連結:億円	A. 14.3期 3Q末	13.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	16,821	14,988	15,668	+1,152	
自己資本	7,733	7,162	7,478	+255	
有利子負債	6,385	5,559	5,401	+983	投資・運転資金に充当
在籍人員	20,370	20,174	19,870	+500	
自己資本比率	46.0%	47.8%	47.7%	-1.8%	
D/E比率	0.83	0.78	0.72	+0.10	

	A. 14.3期3Q	B. 13.3期3Q	A-B	備考
設備投資	873	815	+58	LNG船建造投資の増加等
減価償却費	620	613	+7	
フリーキャッシュフロー	388	178	+210	仕入債務の増加等

フリーキャッシュフロー＝

営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常設備投資による支出。

## II. 14.3期通期見通し

# 14.3期ガス販売見通し

- 10月発表時の見通しから、変更ありません。

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 14.3期 見通し	B. 13.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,112	7,086	+26	+0.4%
	新設工事件数(千件)	100	91	+9	+9.8%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	31.1	32.5	-1.4	-4.4%
	家庭用	2,182	2,272	-90	-4.0%
	商・公・医療用	1,486	1,540	-53	-3.5%
	工業用	4,350	4,222	+128	+3.0%
	業務用計	5,836	5,761	+75	+1.3%
	他ガス事業者向け	462	469	-7	-1.6%
	(うち大口供給)	(5,000)	(4,894)	(+106)	(+2.2%)
	ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )	8,480	8,503	-22	-0.3%
	連結ガス販売量	8,510	8,534	-24	-0.3%



# 14.3期見通し I

( )内は連単倍率

連結：億円

	14.3期見通し		C. 13.3期	A-B	A-C	
	A.12月発表	B.10月発表	実績	10月との差	前年差	
売上高	(1.26) 15,045	(1.26) 15,045	(1.24) 13,800	±0	+1,244	
営業利益	(1.68) 990	(1.68) 990	(1.84) 847	±0	+142	
経常利益	(1.54) 1,000	(1.54) 1,000	(1.63) 901	±0	+98	
当期純利益	(1.69) 355	(1.43) 645	(1.49) 524	-290	-169	
SVA	-27	269	186	-296	-214	
連結ガス販売量	百万m <sup>3</sup>	8,510	8,510	8,534	±0	-24
時期ずれ差損益	億円	-109	-109	-207	±0	+98
原油価格	\$/bbl	109.5*	108.8	113.9	+0.6	-4.4
為替レート	円/\$	99.5*	99.4	83.1	+0.1	+16.4

\* 為替レートおよび原油価格のみ、10月～12月実績を反映した見通しに置き換えています。

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

# 14.3期見通し II

連結:億円	14.3末見通し		C. 13.3末	A-B	A-C
	A. 12月発表	B. 10月発表	実績	10月との差	前年差
総資産	16,277	16,568	15,668	-291	+608
自己資本	7,840	8,023	7,478	-183	+361
有利子負債	5,800	6,070	5,401	-270	+398
在籍人員	21,401	20,201	19,870	+1,200	+1,531
自己資本比率	48.2%	48.4%	47.7%	-0.3%	+0.4%
D/E比率	0.74	0.76	0.72	-0.02	+0.02

	14.3期見通し		C. 13.3期	A-B	A-C
	A. 12月発表	B. 10月発表	実績	10月との差	前年差
設備投資	1,347	1,347	1,129	±0	+217
減価償却費	793	793	828	±0	-35
フリーキャッシュフロー	881	881	850	±0	+30
ROA	2.2%	4.0%	3.4%	-1.8%	-1.2%
ROE	4.6%	8.3%	7.3%	-3.7%	-2.7%
EPS (円/株)	17.1	31.0	25.2	-13.9	-8.1
BPS (円/株)	376.6	385.4	359.2	-8.8	+17.4

フリーキャッシュフロー＝

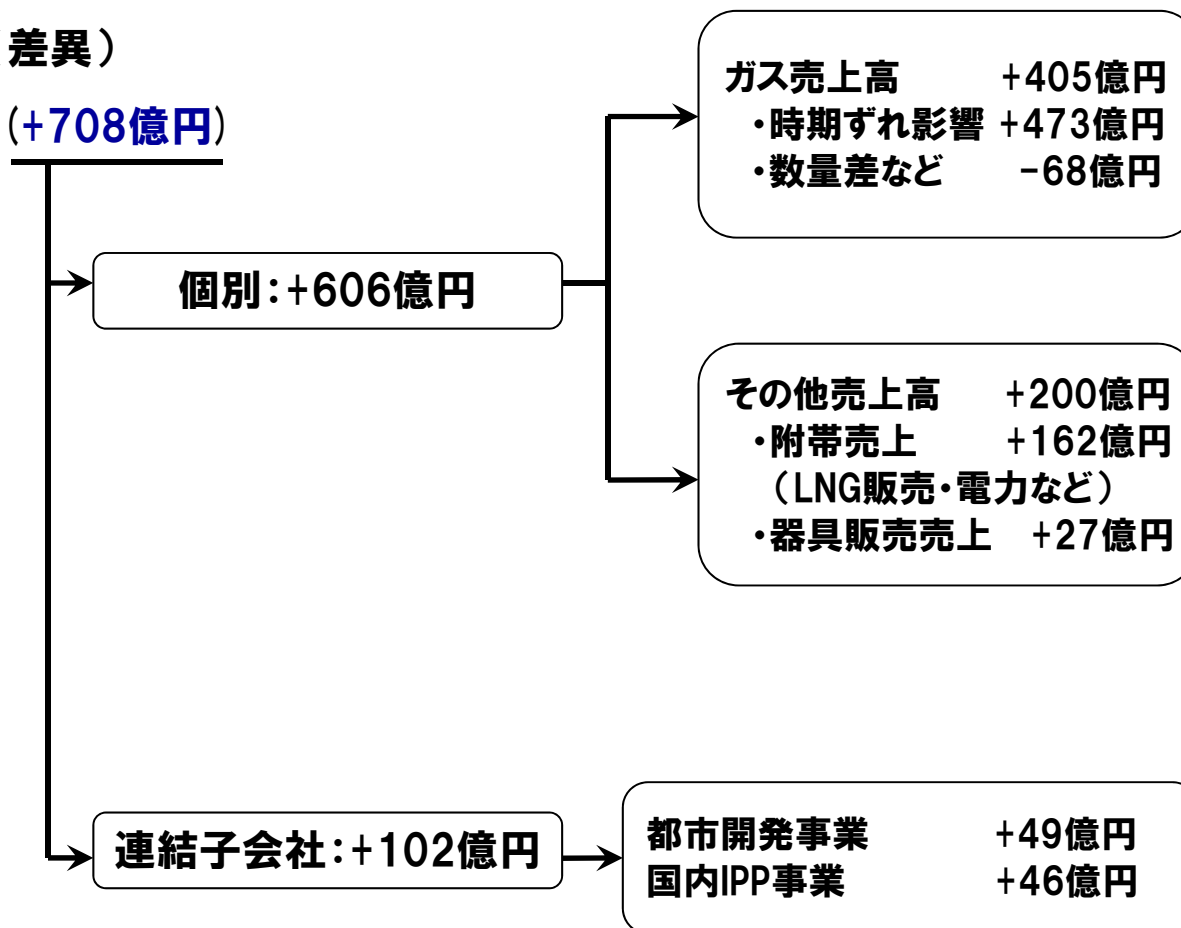
営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出。

### III. 参考資料

# 14.3期第3四半期の売上高差異(対前年同期)

13.3期3Q → 14.3期3Q (差異)

9,635億円 10,343億円 (+708億円)



# 14.3期第3四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

13.3期3Q → 14.3期3Q (差異)

710億円      652億円 (-57億円)

個別: -62億円

ガス粗利            -147億円  
 ・時期ずれ影響   -105億円  
 ・数量差など       -41億円

費用減少            +64億円  
 ・労務費減少       +35億円

その他事業利益    +22億円  
 ・附帯利益           +12億円  
 (主に電力事業など)  
 ・器具販売利益    +5億円

連結子会社: +4億円

出光スノーレ(持分法適用) +13億円  
 米国IPP事業            +8億円  
 国内風力発電事業       +6億円  
 米国上流事業           -34億円

# 14.3期第3四半期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 3Q	13.3期 3Q	14.3期 3Q	13.3期 3Q	
ガス	7,638	7,197	127	213	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の拡大等
LPG・電力・ その他エネルギー	1,745	1,542	310	293	売上:LNG販売・電力事業売上増 利益:電力事業利益増
海外エネルギー	95	78	52	62	利益:米国上流事業利益減
環境・非エネルギー	1,380	1,292	144	133	売上:都市開発事業売上増 利益:国内風力発電事業利益増
消去または全社	-516	-476	19	20	
連結	10,343	9,635	653	723	

(\*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

# 14.3期セグメント別見通し

- 10月発表時の見通しから、変更ありません。

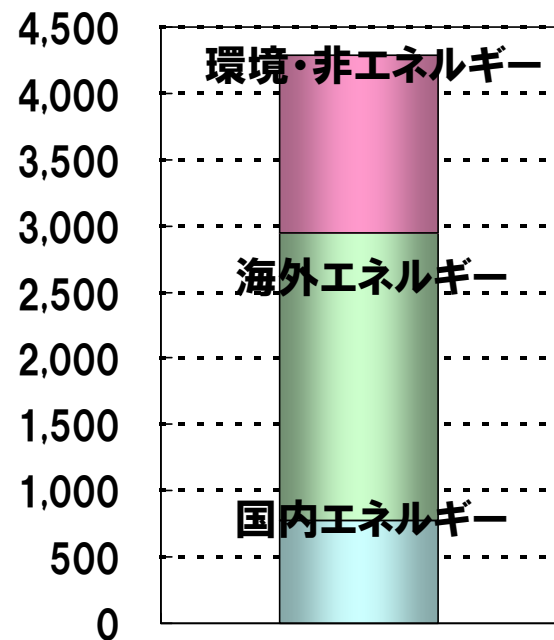
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	14.3期 見通し	13.3期 実績	14.3期 見通し	13.3期 実績	
ガス	10,935	10,385	345	233	売上:ガス販売価格の上昇 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,600	2,155	425	382	売上:LNG・LPG・電力売上増 利益:電力事業利益増など
海外エネルギー	130	107	50	76	利益:米国上流事業利益減
環境・非エネルギー	2,045	1,856	215	190	売上:都市開発事業売上増など 利益:情報事業・都市開発事業 利益増など
消去または全社	-665	-704	30	27	
連結	15,045	13,800	1,065	911	

(\*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

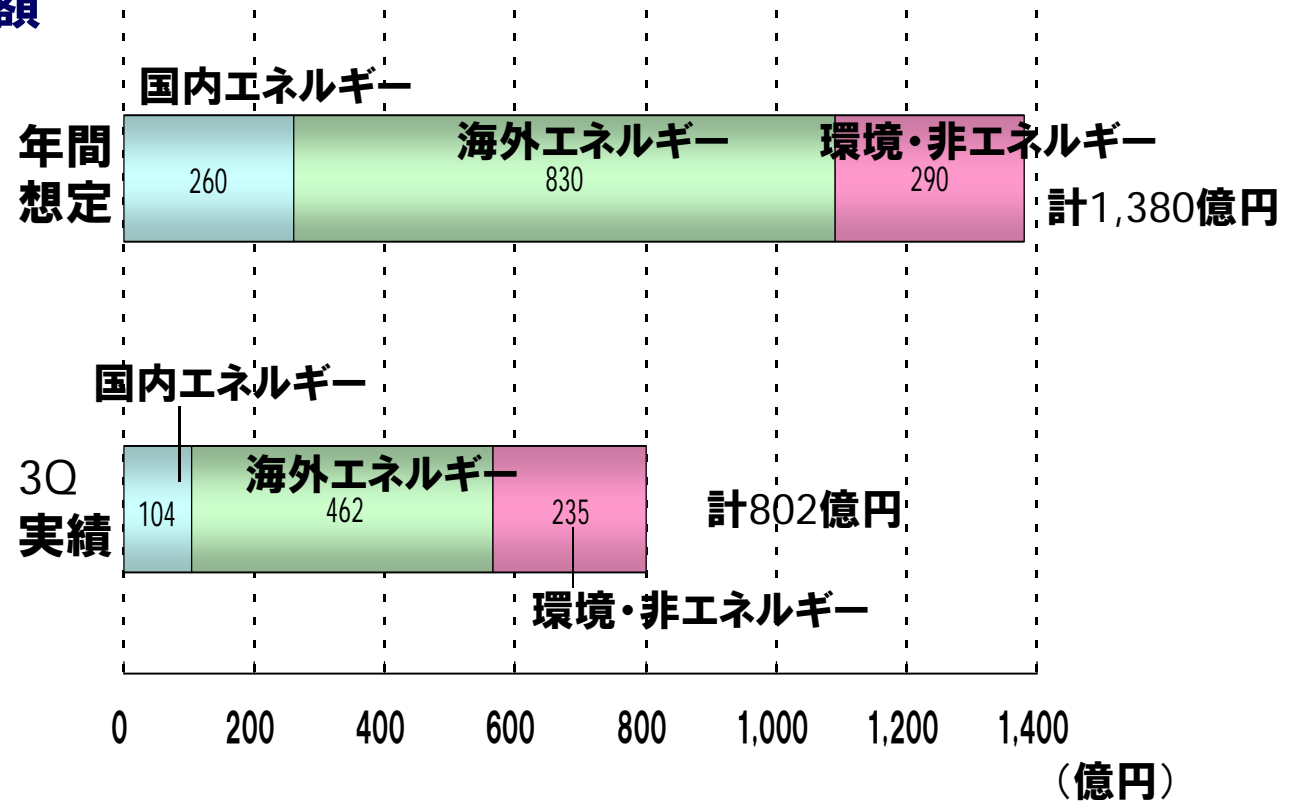
# 14.3期第3四半期新規事業拡大投資実績

- 10.3期からの累計意思決定済金額は**4,290億円**(10.3期～14.3期計画額の107%)。
- 14.3期の第3四半期までの投資実施額は**802億円**(年間計画額の58%)。

10.3期からの  
(億円) 累計意思決定済金額



14.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。



# ガス販売量の前年同期差異分析

	家庭用	商公医療用	工業用
調定件数	+0.5%	--	--
検針日数影響	-1.3%	--	--
気温影響	-3.8%	+0.5% (検針日数影響を含む)	--
需要開発	} -0.8%	+2.2%	+3.0%
稼動増減その他		-3.5%	-1.5%
合計	-5.5%	-0.9%	+1.5%

# 14.3期第3四半期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	備考	
家庭用	89.5	103.7	90.6	92.9	92.8	104.1	104.6	91.9	91.0	94.5	気温及び検針日数の影響	
商・公・ 医療用	91.9	98.2	107.5	103.7	101.1	96.8	97.3	103.1	94.4	99.1		
工業用	100.6	97.6	97.3	103.0	99.7	104.6	105.0	102.7	103.1	101.5		
業 種 別	機械	87.1	87.4	77.9	89.1	85.8	89.9	95.4	98.0	99.7	89.8	節電対応の落ち着きを受けたコージェネ稼働減
	金属	97.7	91.1	87.7	92.9	90.6	99.5	106.5	110.0	108.7	97.9	10月以降、景気回復により対前年で増加
	ガラス	100.9	102.0	102.0	107.8	101.4	98.3	105.5	98.5	94.2	101.2	
	食品	101.0	96.0	98.7	100.2	95.3	99.5	99.4	99.8	100.7	99.0	
	化学	110.4	103.5	104.0	107.0	100.9	110.4	112.1	104.9	98.9	105.7	需要開発等
卸	109.2	94.1	86.9	103.0	94.9	106.9	95.5	102.2	95.7	98.6		
計	95.9	99.2	96.9	101.5	98.9	102.5	102.7	99.9	97.4	99.3		

# 年度見通しに対するリスク要因

## ■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

## ■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度第4四半期の経常利益は0.1億円変動する可能性がある。

## ■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度第4四半期の経常利益は14億円変動する可能性がある。

## ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

## ■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。